

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1>	<h1 style="font-size: 2em;">国語 第135号</h1>	
	対象 校種	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校



鹿児島県総合教育センター
平成28年4月発行

中学校国語科における「読むこと」の授業改善 - 「自分の考えの形成」に関する指導を中心に -

国語科の指導において「読むこと」の指導事項の一つである「自分の考えの形成」に関する指導の重要性と、自分の考えを形成する力の定着を図るための「読むこと」と「書くこと」のつながりを生かした授業改善の具体的な進め方について提案する。

1 「自分の考えの形成」に関する指導の充実

今、国語科の学習において、実生活に生きて働く確かな国語の能力を確実に身に付けさせるために「自分の考えの形成」を図る指導の充実が求められている。その背景には、「読むこと」の指導における、場面ごとの要点や要旨、心情や主題を中心とした詳細な読解指導に偏りがちであったこれまでの授業の在り方に対する見直しがある。

それは、中学校の国語科学習指導要領解説国語編の「読むこと」の内容構成にも反映されており、「自分の考えの形成」に関する指導事項が新設されている。その各学年の指導事項は、次のとおり具体的に示されている（下線は筆者による）。そこには、第1学年から第3学年を通して、書かれていることを読んで自分の考えをもつことや、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことが明示されている。

第1学年

- エ 文章の構成や展開、表現の特徴について 自分の考えをもつこと
- オ 文章に表れているものの見方や考え方ととらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること

第2学年

- ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について 自分の考えをまとめること
- エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて 自分の考えをもつこと

第3学年

- ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開表現の仕方について 評価すること
- エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと

このことは、従前の文章の解釈を中心としてきた指導から、解釈を通じて生徒一人一人が自分の感じたことや考えたことを学習に生かす指導への質的転換を意味している。そして、実生活に生きて働く確かな国語の能力を生徒に確実に身に付けさせるためには、「読むこと」の領域においても、「自分の考えの形成」に関する指導を充実しながら目的に応じた多様な読み方の指導を行う必要がある。

2 「読むこと」の指導の現状と言語活動を充実させる授業改善

文部科学省が毎年実施している全国学力学習状況調査において、生徒質問事項「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」に対する平成21年度から本年度までの中学校の調査結果を隔年で図1に示す。

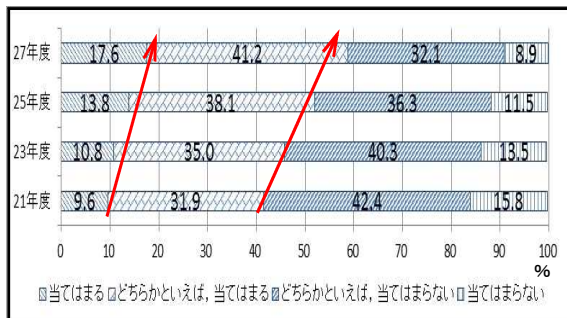


図1 「目的に応じた資料の読み、と自分の考えを話したり、書いたりする活動」
(平成21～27年度文部科学省全国学力・学習状況調査)

この設問に「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた全国の生徒の割合は、着実に増加しており、「読むこと」における指導改善の一定の成果を評価することができる。しかし一方、現在も約4割の生徒が、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする」ことに課題を感じていることが分かる。この調査結果から、中学校国語科の授業において、生徒に「読むこと」の目的を十分に意識させないまま国語科の授業が展開されていないか、また、「自分の考えの形成」を図ることをねらいとした指導が十分になされているか、もう一度振り返る必要がある。なぜなら、教師が指導のねらい（目的）を明確にした授業をしてこそ、生きて働く確かな国語の能力の確実な定着を図ることができるからである。

そこで、文章の解釈を通じて、書いてある内容の理解にとどまらず、生徒の知識や

経験や価値観に照らして、どのように感じ、考えたのかという「自分の考え」をもたせるためには、具体的な次に挙げる、感想や意見等の言語活動を通じて、指導の充実を図ることが望ましい。

第2学年「読むこと」の言語活動例

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

第3学年「書くこと」の言語活動例

ア 物語や小説などを読んで批評すること。

第2学年「書くこと」の言語活動例

イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

また、「自分の考え」を支える、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりするためには、互いの考えを相互に交流させる指導の充実が大切である。さらに、具体的な言語活動を通じて、目的に応じた多様な読み方を指導し、「自分の考え」をもたせることは、目的に応じた読書や情報活用の指導事項にもつながっていくのである。

3 記述、推敲、交流を位置付けた単元構想

(1) 「書くこと」と関連付けた単元の指導

『指導資料 国語第134号（平成27年10月）』の小学校の実践でも示したとおり、「自分の考えの形成」に関する指導事項を指導する際には、「B書くこと」の(1)のウの記述と関連付けて指導することが効果的である。本稿では、加えて「B書くこと」の指導事項エ・オの推敲・交流と併せた指導を提案したい。つまり、「読むこと」の指導で「自分の考えの形成」を図り、それを「書くこと」の指導事項である「記述」、「推敲」と「交流」を必要に応じて組み合わせることで、国語科の学習活動相互の関連と必然性が生まれる。

(2) 具体的な指導計画の例(第1学年 読むこと 「空中ブランコ乗りのキキ」三省堂 1年)

ア 単元名 自分をみつめる(全7時間)

『空中ブランコ乗りのキキ』を読んで、自分の考えを明確にして、意見文を交流しよう。

イ 単元の目標

(ア) キキの心情の変化や生き方を捉えながら、人間や社会、生き方に対する自分のものの見方や考え方を広げたり、深めたりすることができる。(C読むこと オ)

(イ) 「キキは4回宙返りをするべきか、やめるべきか」について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことができる。(B書くこと ウ)

(ウ) 意見と根拠との関係、文や段落のつながりなどに注意して、読み手にわかりやすい意見文にすることができる。(B書くこと エ)

(エ) 書いた意見文を互いに発表し合い、考えや根拠の明確さなどについて、意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。(B書くこと オ)

過程	学習活動	時間	指導・援助の留意点
導入	1 単元の学習に見通しをもち、学習目標、言語活動を確認する。 ・ 学習目標・学習計画を確認する。 ・ 学習の進め方を理解し、単元を通じて身に付けるべき力を明確にする。	1	・ 学習プランを提示し、学習への動機付けを行う。 ・ 学習活動が生徒にとって必然性のあるものになるようにする。 ・ 初発の感想を基に疑問点や印象に残った点等を発表させ、学習課題の設定や、単元の学習活動に反映させる。
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元の目標 「空中ブランコ乗りのキキ」を読んで、 言語活動 自分の考えを明確にして、意見文を交流しよう。 </div>		
	<div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; display: inline-block;"> 言語活動を単元を貫いて位置付ける。 </div>		
展開	2 自分の考えを明確にした意見文を書くために、登場人物の心情や行動の変化や生き方を捉えさせる。 ・ 生徒が、文章中の表現を手掛かりにして意見文を書くために必要な言葉を、根拠としての確に捉えさせる。	3	※ 意見文を書くための「読むこと」の目的を生徒に意識させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の考えの形成を促す学習課題 ① キキが「4回宙返りをしなければいけないのだろうか……」とつぶやいたとき、キキはどのような気持ちだったのだろうか。 ② ロロに「いっそ、ピエロにおなり。ピエロなら、どこからも落ちやしない。」と言われたとき、キキはどのような気持ちだったのだろうか。 ③ おばあさんに「死ぬよ。」と言われたとき、キキはなぜ「いいんです。死んでも。」と語ったのだろうか。 </div>		
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【自分の考えの形成】 (C読むこと オ) </div>		
中 略			
展開	4 主人公キキの生き方について考え、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして、意見文にまとめる。 → 【記述】 (B書くこと ウ) 「読む」活動で形成した自分の考えを、意見文として記述させる。 5. 互いの意見文をペア、グループで交流し、意見交換を行う。 【交流】 (B書くこと エ)	2	・ 本文の解釈を通じ、自分の考えを明確に伝えるための意見文を200字の短作文形式で書かせる。 ・ 書き方の留意点を示して、自分の考えを書かせる。 ・ 意見文の発表を通じて相互の交流を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【意見文のテーマ】 キキは4回宙返りをするべきかそれともやめるべきか</div> ・ 交流を通じて、書いた意見文を互いに発表し合い、互いに意見を述べたり、自分の表現を見直す参考にしたりする。 生徒に書かせ、表現させたものは交流を通して、深化・拡充を図る。
終末	6 4回宙返りを試みたキキの心情や様子と町の人々の反応や様子を読み取るとともに姿を消したキキと白い鳥について考え、キキの生き方に対する自分の考えをまとめる。 → 【推敲】 (B書くこと オ) 7 全文を味わいながら朗読し、学習を振り返るとともに、人間の生き方に対する自分の考えを深める。	1	・ 交流を通じて深まった自分の考えを踏まえて、記述した意見文を見直し、推敲(補足・修正)する。 ・ 物語の展開を確かめて読み深めながら人間や社会、生き方に対する自分のものの見方や考え方を深めさせる。 意見文の推敲を通して、自分の考えの成長や変容を意識させ、学習の成果を実感させる。 <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分の考えの深まりと広がり </div> ・ キキが大切にしていたものに気付かせ、形成した自分の考えと対比させながら、最後の場面を読み味わわせる。

(3) 学習の成果と生徒の意見文の例

次に示す意見文は、「読むこと」の学習を通じて同じ生徒が「自分の考え」を表現したものである。二つの意見文を交流前後で比較すると、指導のねらいである「読むこと」の「自分の考えの形成」が「書くこと」の力の定着につながっていることを見取ることができる。

【交流前の意見文】

キキは4回宙返りをすべきか、やめるべきか
28日(木曜)

推敲のポイントを書いて、意識している。

交流を通じて意識した他者の考え(メモ)

自分の意見文(生かす)してやる。

最低5個

相手の意見へ

命は大切なものだけれど、一度しかない人生だから、自分が後悔しないように生き方をしたいと思う。

少しの間だけでも。

【交流後の意見文】

キキは4回宙返りをすべきか、やめるべきか。
(12月4日水曜)

人生がおもしろくなくなってしまうかと思うか
りです。

だから、キキは4回宙返りをすべきだと思います。

ろなことに、おそれてしまっているだけではないかと思うか
一番だと思ってしまう。

だから、これからは、一つ一つの命、一回の人生
で、大切にしたい。

確かに、一つの命は、とても大切なもの
も、大きな満足を得ることができるとは、たまたま一瞬で
存在感・価値感を味わうことは、たまたま一瞬で
なぜなら、自分の生きがいには、ほこりをもち、
キキは4回宙返りをすべきだと思います。

4 「自分の考えの形成」を促す交流

中学校学習指導要領解説国語編の「書くこと」の指導事項に初めて「交流」が位置付けられた。このことは、生徒が国語の学習における「書くこと」は、他者に読まれる交流を前提として位置付けられていることを示している。つまり、生徒に「交流」をさせない「書くこと」の指導はあり得ないことを表しているのである。

ここで大切なことは、「書くこと」の表現活動と併せて「自分の考えの形成」に関する指導をする際には、ねらいや目的を明確にした「交流」をさせることである。形式的なペアやグループによる交流ではなく、

「自分の考え」の深まりや広がりにつながるような「交流」の指導を行うことが大切である。例えば、互いの意見文を読み比べ

て、自分の考えやそれを支える根拠や理由等を比較させるなど具体的な「交流」の視点を与える必要がある。交流の視点を与えることで、意見文の単なる紹介に終始せず、「自分の考え」を表現した意見文を推敲する機会や場となり、「自分の考え」の深まりや広がりにもつながる。

これからも「読むこと」の授業改善を通じて、「自分の考えの形成」に関する指導の一層の充実を図ってほしい。そして、生徒の自ら学ぶ意欲を喚起しながら、実生活に生きて働く確かな国語の能力の育成のための取組を進めてほしい。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説国語編』平成20年
- 鹿児島県総合教育センター【指導資料1850号(国語第134号)】平成27年10月

(企画課)